

1. 開催日時 平成 27 年 5 月 31 日 14 時 50 分～16 時 50 分
2. 開催場所 国際ファッションセンター KFC ホール（東京都墨田区横綱 1 丁目 6 番 1 号）
3. 有効出席数 正会員総数 1,774 名中 1,042 名（内 当日出席者 161 名、議長委任者 815 名、書面表決者 66 名）
4. 審議事項、議事の経過の概要及び議決の結果

<議長の選出>

定刻、当法人定款の規定により、正田事務局長が議長の選出について出席者に諮った結果、総会に出席した正会員の中から加藤彰さんが議長に推薦され選出された。議長は総会の開会を宣言、事務局より正会員総数、有効出席数、書面表決結果の報告を行い、議長は本総会が適法に成立する旨を宣した。続けて、議事録署名人の選出について出席者に諮った結果、尾上昌毅さん、田代翼さんが選出された。また、本日出席の理事・監事の紹介があり、議案の審議に入った。

<第 1 号議案> 平成 26 年度事業報告並びに決算及び監査報告について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、野口和裕理事より事業報告の説明が、野口砂絵子理事より決算の説明があった。また、平山監事・中西監事より、「監査の結果、法令及び定款に違反する重大な事実はなく、財産及び収支の状況はいずれも適正妥当であった」との監査報告があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。（電子評決 賛成 65、反対 1）

<第 2 号議案> 平成 27 年度事業計画並びに予算について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、平井理事より事業計画の説明が、酒井理事より予算についての説明があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。（電子評決 64、反対 2）

<第 3 号議案> 平成 27 年度役員の選任について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、上井理事より、平成 27 年度の理事として荒金雅子、飯島邦子、酒井麻里、杉村郁雄、鳥羽秀人、野口和裕、椿恵子（通称：正田恵子）、平井雅以上 8 名の再任と明石克巳、加藤貴美子以上 2 名の新任が提案された。あわせて、監事に平山猛、池田隆年の新任が提案された。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。（電子評決 賛成 64、反対 2）

以上をもって本日の議事は終了し、議長は 16 時 30 分閉会を宣した。

2015 年 5 月 31 日

住所 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3 丁目 1 2 番 8 号
名称 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

以上、本会議の議事及び結果が正確であることを証するため、議事録を作成し、議長及び議事録署名人はこれに署名捺印する。

2015 年 5 月 31 日

議 長 加藤 彰 ㊟

議事録署名人 尾上 昌毅 ㊟

議事録署名人 田代 翼 ㊟

総会議事資料誤植訂正表

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数		
				会員	一般	
東京支部 定例会	2月6日	東京都港区立生涯学習センター ばるーん 305 学習室	8	6	6	追加
						受益対象者延べ人数

<第 1 号議案> 平成 26 年度事業報告並びに決算及び監査報告について

議長より、挙手による質問を受け付けたが、とくに質問や意見はなかった。

<第 2 号議案> 平成 27 年度事業計画並びに予算について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

意見) 「運営体制の拡充・強化と最適な運営方法の検討」については、2~3 年前から議論されているが動きが遅い。円卓会議など他の取り組みのように準備室を立ち上げて、取り組んでもいいのではないかと。

質問) スクエア制度設立当初は支部になることを前提にしていた。「3 年経ったら、支部にならない場合はサロンに戻る」というルールについて、現在ではどのように認識しているのか。

回答) 当初のスクエア設立の経緯もあるが、会員以外が参加できることがスクエアの活動成立の実態であり、支部になることで会員以外が参加できなくなることによる影響がでてくる。このような状況の中であり方を検討しており、「サロンに戻る」ことは保留になっている。地域の現状に合ったあり方を検討したい。

質問) 「支部・スクエア・サロンの役割について」は、結論を出す予定なのか。支部・スクエア・サロンの意見を吸い上げた上で決定するのか。結論は今年度、出すのか。

回答) 支部・スクエア・サロンの意見を聞かずに、決定することはない。意見を聞くことは年内に行いたい。結果も今年度中に出す。

質問) 会員数は増えていく方が望ましいのか。

回答) 会員数が増えていくことが望ましいという見解は現時点ではない。入退会分析と合わせて議論していきたい。

意見) 総会出席状況からみて、出欠提出をしていない人が 800 人いる。声の聞こえてこない 800 人の声なき声を聞き出すことをしてほしい。その人たちの声をどう拾っていくのか、悩ましいと思うが、期待している。

質問) 会員減少についてどう捉えているのか、会員数の目標値はあるのか。

回答) 会員適正数は設けていない。これまで増やそうと思って、増えてきたわけではない。今後、適正規模や各種分析を行う。適切な組織規模や会員数、これまで増えてきた経緯についての分析も必要と考えている。理事会としては、初めての会員数減少を深刻に受けて止めているが、具体的な方策は現時点では立てられていない。

質問) 会員減について、入会者が減っているのか、退会者が増えているのか、どちらか。

回答) 入会者は横ばいで、退会者が増加した。

意見) 来年の総会資料には会員数の増減をつけてほしい。入退会者等のデータを掲載してほしい。

回答) 承る。参考であるが、理事会議事録には記載している。

質問) 実践プロジェクトというプロジェクトの募集(公募)はあったのか。

回答) 運営規定 36 条に基づくプロジェクトではなく、事業計画に基づく取り組みとして検討会として立ち上げ、昨年度、全国 ML で公募した。なお、公募したメンバーで活動してきたが、昨年度は全国のメンバーで集まることはなかった。

質問) 「各分野×ファシリテーション(以下、F)」については、いつどうやって始まっていくのか。F×教育でやるなら、今動き出してもいいと思うが、具体的にどのように始まっていくのか。

回答) 重点分野の設定については、補遺資料 6 番にあるとおり、相談しながら進めていく。いつの間にか、早いもの順で決まるというものではない。予算をどのように使っていくのかは決まっていない。

意見) 「オープン FAJ」において、一定期間に集中してやるだけではなく、共催の活動もうまく使うことを検討してほしい。共催イベントなどについて予算などで助成をしてほしい。例えば、患者の家族の会議を F、困っているところに働きかけることをしてほしい。申請して、助成をできること、支援する会議にもお金を使ってほしい。(内部向けのシンポジウムの会場費に比較すると、外部に使

う金額として決して多くはない)

質問) オープンFAJについて、具体的なイベントをするのか、発信をするだけなのか。また、FAJの活動の中でのイベントなのか、各会員の個人の活動の告知や広報なのか。内容を教えてほしい。

回答) 質問に示されたすべての活動が該当します。オープンFAJの方法としては、イベントを開催する、定例会やイベントなどFAJ活動そのものを公開する、FAJと外部団体と連携したの活動を開催するなど、様々なFAJの活動すべてを一斉に広報・告知する方向で検討している。例えば、HPにオープンFAJというサイトが期間限定で立ち上がり、上記のような活動の開催情報や実施報告を集中的に広報を行うイメージ。定例会の見学者を増やしたり、会員が個人的に行っている活動を紹介できるようにするなど、非会員にもオープンにしたい。やり方そのものは多岐にわたる予定で、これから会員のみなさんと検討していく。すべての内容が決定しているものではない。

質問) 「各分野×F」の予算はどれにあたるのか。人が集まって活動するには、お金がかかるはず。

回答) 新しい活動を始めるときは、調査研究事業「プロジェクト」という枠組みで行っている。現段階では、同様に調査研究事業や組織運営に関する事業として扱い、不足する場合は事業予備費の中から支出する予定である。

質問) 実践プロジェクトの予算30万円とは何のためのものなのか。このプロジェクトが具体的に何をやるのか教えてほしい。

回答) 検討会メンバーによる対面ミーティングを行う予定で取得している。ファシリテーションの学習者が実践者になっていけるよう流れをつくっていく仕組みを目指している。具体的な案件を通して実践し、定例会でも会員に報告していく。

質問) 寄付を受け付けられない理由はあるのか。受け付けたほうがよいのではないのか。

回答) 寄付収入は受け付けている。積極的なPRを行っていない。

質問) 実践プロジェクト30万、準備室40万は、新しい部門設置のためのものか。40万の使い道は決まっているのか。準備室の内容が明確ではないが、予算が実践プロジェクトよりも多いのはなぜか。

回答) 準備室の予算は、円卓会議2の提案を受け、これからの活動を検討し、交通費の試算などを行った結果による金額であり、新しい部門を立ち上げるために対面ミーティングが増えるということが要因である。実践プロジェクトの予算は2014年度に計画していた金額を利用しなかったのもそのままだま2015年度予算額としている。

質問) 収入3,700万に対して、500万円の赤字予算、補遺47番に説明はあるが、本当に大丈夫なのか。これまでを見ていると、去年も同様に赤字予算であったが、決算時に黒字になっているので、文化としてこれまで通りにいけると考えているのか。

回答) 内部留保があることを前提に、必要なものを必要なときに使う、やるべきことはやるという認識である。各支部等から提案されてくる予算数字は精査している。決算時には赤字にならないだろうという前提で立てたわけではない。必要と試算した内部留保額に対してまだ余裕があるため、積極的に事業を実施したい。

質問) 会員が減る傾向の中で、収入額をつじつまがあっていないのではないのか。今年度の決算では会費収入1,650万、一方、収入予算が1,800万なのはなぜか。会員数の減からすると、会費収入がこのまま微減していく可能性が高いのではないのか。なぜ会員は増えるという前提で予算をたてるのか。

回答) 補遺資料46にて補足。二年連続で会員数が下がった場合には見直す。今年初めて減ったので、前年度予算比で据え置きにした。2014年度の実績にあわせた予算額をしなかった。

意見) シンポジウムで行ったバズセッションが良かった。総会でも総会後のアフターセッションをしてはどうか。議題を議論し、総会後に会員双方がわいわいがやがやと、今年度どのように実践したらいいのかを話す機会があるとよい。

<第3号議案> 平成27年度役員を選任について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) ニックネームは知っているが、本名を知らないの、役員を選べないのではないのか。選挙のプロセスを説明してはどうか。役員選出において、票が得られない原因ではないのか。

回答) 推薦事務局から、全国の各委員に対し推薦依頼を電子メールで行う。推薦したい理事候補者の名前を本名で記載いただく方法である。

意見) 人材がいたけれど本名が書けないために推薦できなかったのではないのかという推論をもっている。人材を発掘につながっていないのではないのか。

意見) 目的に達成できないプロセスは見直す必要があるのではないのか。検討してほしい。

以上